

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域に位置する興部町は、豊かな自然に恵まれており、漁業、酪農業、林業を中心とした一次産業が盛んである。

圏域内には沙留漁業協同組合があり、第1種漁港1港（興部漁港）、第2種漁港1港（沙留漁港）の計2漁港により漁業活動が展開されている。

地区ではホタテガイ等の主要な漁獲物の水揚げが堅調であり、漁協経営も好調であるため近隣漁協との合併の動きは無い。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域ではオホーツク海を漁場としたほたてがい漁業及びさけ定置漁業が盛んであり、これら漁業種類で圏域全体の水揚量の約9割を誇る。

主要魚種はホタテガイとサケであり、令和元年の港勢調査によるとホタテガイ（稚貝養殖を含む）は漁獲量が16,443トン、金額が23億円、サケは漁獲量が1,181トン、金額が6億円となっている。

ホタテガイは地まき養殖により資源造成がなされ、平成26-27年に低気圧による漁場被害を受けたものの、漁場の回復に伴い現在では漁獲量が増加傾向にある。また、サケ・マスについては人工種苗放流による資源造成が行われ、漁獲水準の維持に努めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

圏域内で水揚げされた漁獲物は、沙留漁港の産地市場に集約され、特にホタテガイについては沙留漁業協同組合の自営加工場で玉冷製品等に加工されるほか、圏域内外の民間水産加工場や仲買人等を通じ、国内外へ流通している。

④ 養殖業の状況

ホタテガイについては天然幼生を採取して中間育成した稚貝を前浜に放流し、その3年後に成貝を漁獲する地まき養殖の生産体制が確立されている。

また、サケ・マスについては毎年、秋に回帰した親魚で人工授精を行い、翌春に放流し、その後、回帰した成魚を漁獲する資源造成の体制が確立されている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内の漁業経営体数は151経営体、組合員は114名となっている。

近年の組合員数は横ばいであり、水揚げも堅調であることから、今後とも同様の傾

向が継続することが見込まれる。

⑥ 水産業の発展のための取組

主要魚種であるホタテガイ及びサケ・マス類については、安定的な漁獲を図るため、地域漁業者により種苗生産と放流が行われている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

沙留漁港では、輸出先の衛生管理基準を満たす製品づくりに向け、生産から流通に至る過程でより高度な衛生管理が可能となるような衛生管理関連施設の整備のほか、荷さばき所の省力化対策、災害に強い漁港作りに向けた耐震化対策や港内の静穏確保、岸壁及び漁港施設用地の不足、施設老朽化に伴う機能保全、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

興部漁港では、既存施設の老朽化に伴う機能保全や、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当圏域では、ホタテガイの水揚げや集出荷機能を沙留漁港に集約するなど各漁港機能の役割に合わせた集約化が進められているが、将来的な漁業形態の変化に合わせ対応する。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由； 当圏域で水揚げされた漁獲物は、沙留漁港の産地市場で集荷された後、消費地や加工場へ出荷されているため。
② 圏域範囲	興部町	設定理由； 圏域内の水産物が集約される興部町内の流通拠点漁港（沙留漁港）の集荷範囲としたため。
③ 流通拠点漁港	沙留漁港	設定理由； 漁港背後に圏域内の水産物が集約される産地市場や加工場が立地するとともに、災害発生時には事業継続計画（BCP）に従い当該漁港を拠点に漁業活動が早期に再開できる態勢が構築されているため。 ・ 属地陸揚量：19,438t（R1） 属地陸揚金額：34億円（R1）

④ 生産拠点漁港	興部漁港	<p>設定理由；</p> <p>属地陸揚げ金額が3億円であり、さけ定置漁業などにおいて陸揚げや日常的な漁具のメンテナンスといった漁労活動の拠点となるなど中核的な役割を果たすほか、荒天時には近隣漁船の避難場所として機能するため。</p> <p>・ 属地陸揚げ量：658t (R1)</p> <p>属地陸揚げ金額：3億円 (R1)</p>
⑤ 輸出拠点漁港	沙留漁港	<p>設定理由；</p> <p>輸出対象魚種であるホタテガイの陸揚げ拠点となっているため。</p>

(令和元年)

圏域の属地陸揚げ量(トン)	20,096	圏域の登録漁船隻数(隻)	193
圏域の総漁港数	2	圏域内での輸出取扱量(トン)	318
圏域で水産物の水揚げ実績がある港湾数	0		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	沙留地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ホタテガイ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	ホタテガイ(地まき) 15,721 ホタテガイ(養殖) 722
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	ホタテガイ(地まき) 1,977 ホタテガイ(養殖) 337

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

・ 生産・流通機能強化

波浪による航路・泊地の静穏度悪化に備えるため、静穏度対策を講ずる必要

がある。

また、荷さばき作業における省力化を図るため、ICT技術の導入について検討する。

- ・輸出促進への対応

輸出先国の衛生基準等ニーズに対応した水産物を生産し、輸出を促進するため、衛生管理された高品質な水産物の流通増大と鮮度保持対策を進める必要がある。

また、沙留漁港では、危害要因を排除し、衛生管理体制をハード面から構築するため屋根付き岸壁の整備を計画しているところであるが、管理者の衛生管理意識の向上や施設の効果的運用を図るため、ソフト対策をあわせて講じていく必要がある。

②養殖生産拠点の形成

岸壁不足や泊地の狭隘、作業動線の未整備に伴い、ホタテガイ稚貝の集出荷など養殖漁業の陸上作業で非効率な状況にあることから、改善を図る必要がある。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境の変化等により主要魚種の漁獲水準が低下傾向にあるなどの課題が顕在化しており、持続可能な漁業生産を確保するため、漁港施設用地を活用した陸上畜養・増養殖や、漁港区域内の海面を活用した畜養・増養殖といった地元の取り組みと連携した漁港整備を推進する。

②災害リスクへの対応力強化

- ・漁業地域の安全・安心の確保

自然災害に対応した防災機能対策や漁港利用者の安全確保ができるよう、航路・泊地の静穏度を高めるための施設整備が必要である。

また、大規模災害が発生した場合に備え、沙留漁港事業継続計画（BCP）に従い漁業活動の早期復旧を果たすため耐震岸壁が必要である。

- ・持続可能なインフラ管理の推進

予防保全を含めた持続可能なインフラ対策を講ずるため、ドローンなどの新技術を導入した施設の診断を迅速かつ効率的に行うとともに、外郭施設など老朽化した施設の機能保全や、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

- ・地域活性化の取組との連携

沙留漁港では、背後地に沙留漁業協同組合の直売所があり、観光客が新鮮な水産物を求めて来訪することから、観光資源ともなる良質な水産資源の確保に繋が

る施設整備により地域の活性化を目指す。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・就労環境の改善

当圏域では、漁獲物の選別作業の際に女性など多様な担い手が従事しており、今後整備予定の衛生管理施設（天蓋施設）の副次的な効果としてこれら担い手に対する就労環境が改善されることから、当該施設の整備を図る。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
興部	輸出促進	水産流通	沙留	2	○

- ・流通機能強化

航路・泊地の静穏確保のため、外郭施設の整備を行う。

- ・輸出促進

衛生管理型漁港施設として生産・流通機能の強化と輸出促進を図るため、水揚げ岸壁（天蓋施設）や清浄海水供給施設、製氷施設、荷さばき施設といった衛生管理施設の整備を行う。

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
興部	養殖拠点	水産流通	沙留	2	○

- ・養殖拠点

港内の狭隘に伴いほたてがい養殖漁業の作業に支障をきたしていることから、岸壁や用地を整備する。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
網走	安全・安心	水産流通	沙留	2	○
網走	予防保全	機能保全	沙留	2	○
網走	予防保全	機能保全	興部	1	

- ・安全・安心

港内の静穏確保のため外郭施設を整備するとともに、大規模災害が発生した場合

に備え、沙留漁港事業継続計画（BCP）に従い漁業活動の早期復旧を果たすため、耐震岸壁を設置する。

・ 予防保全

老朽化した施設の機能保全のほか、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
興部	就労環境	水産流通	沙留	2	○

・ 就労環境改善

衛生管理施設(天蓋施設)の副次的な効果として就労環境が改善されることから、当該施設の整備を図る。

4. 環境への配慮事項

漁港整備にあたっては、懸濁物の流出防止やサケ稚魚の降海時期に配慮して施工するものとする。

また、環境負荷の削減を目指し、再生可能エネルギーの導入や、施工時におけるリサイクル材の利用について検討する。

5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

北海道オホーツク総合振興局水産物流通圏域図

網走西部第2圏域

流通拠点(一般)型

流通拠点: 雄武漁港(2)
 圏域総陸揚量: 23,381 t
 圏域総陸揚金額: 53 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 18,724 t
 圏域海面養殖業総産出額: 33 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走西部第1圏域

流通拠点(一般)型

流通拠点: 沙留漁港(2)
 圏域総陸揚量: 20,096 t
 圏域総陸揚金額: 36 億円
 漁港2港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 16,443 t
 圏域海面養殖業総産出額: 23 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走中部第2圏域

流通拠点(一般)型

流通拠点: 湧別漁港(2)
 圏域総陸揚量: 40,383 t
 圏域総陸揚金額: 62 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 37,306 t
 圏域海面養殖業総産出額: 52 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走中部第1圏域

流通拠点(一般)型

流通拠点: 常呂漁港(2)
 圏域総陸揚量: 75,384 t
 圏域総陸揚金額: 135 億円
 漁港6港、港湾0港
 <機能集約>荷さばき所、岸壁
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 70,546 t
 圏域海面養殖業総産出額: 115 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走東部第2圏域

流通拠点(一般)型

流通拠点: 能取漁港(4)、網走港
 圏域総陸揚量: 59,702 t
 圏域総陸揚金額: 113 億円
 漁港3港、港湾1港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 28,212 t
 圏域海面養殖業総産出額: 58 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走東部第1圏域

流通拠点(一般)型

流通拠点: 斜里漁港(2)、ウトロ漁港(4)
 圏域総陸揚量: 11,271 t
 圏域総陸揚金額: 56 億円
 漁港3港、港湾0港
 <機能集約>特になし

